

## 君津中央病院を受診された患者さまへ

当院では下記の臨床研究を実施しております。

この研究の対象者に該当する可能性のある方で、診療情報等を研究目的に利用又は提供されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にご連絡ください。

研究課題名	進行肝細胞癌治療において実臨床における全身化学療法の安全性と有効性を検証する多施設後向き研究（倫理委員会承認番号：406、507、606、616）
当院の研究責任者 (所属)	畦元 亮作（消化器内科）
他の研究機関及び 各施設の研究責任者	<p>研究代表</p> <p>千葉大学医学部附属病院消化器内科 加藤直也</p> <p>他の研究参加機関</p> <p>松戸市立病院 消化器内科 岡部真一郎</p> <p>船橋市立医療センター 消化器内科 水本英明</p> <p>日本医科大学千葉北総病院 消化器内科 厚川正則</p> <p>国保旭中央病院 消化器内科 糸林詠</p> <p>国立病院機構千葉医療センター 内科 伊藤健治</p> <p>自治医科大学 内科学講座消化器内科学部門 森本直樹</p> <p>沼津市立病院 消化器内科 菊池保治</p>
本研究の目的	<p>進行肝細胞癌治療は一次治療としてアテゾリズマブとベバシズマブの併用療法、ソラフェニブ、レンバチニブ、二次治療としてレゴラフェニブ、ラムシルマブ、カボザンチニブが使用可能となります。しかしながら、それら薬剤の実臨床における安全性および有効性、使い分けはいまだ不明確であり、検証を進めていく必要があります。本研究は千葉県内の複数の施設から、アテゾリズマブとベバシズマブの併用療法、ソラフェニブ、レゴラフェニブ、レンバチニブ、ラムシルマブ、カボザンチニブを使用した患者さんのデータを集積し、臨床的知見から検証する研究です。</p>

調査データの 該当期間	2018年3月から2024年12月まで
研究の方法 (対象となる方)	該当期間に当院で肝細胞癌に対してアテゾリズマブとベバシズマブの併用療法、ソラフェニブ、レゴラフェニブ、レンバチニブ、ラムシルマブ、カボザンチニブを導入した患者さん
研究の方法 (使用する情報)	診療録に記載されている患者さんのデータ（病歴、治療歴、内服用量、採血結果、画像検査、治療経過）
資料・情報の他機関 への提供	共同研究先である上記の研究機関・研究責任者のみへ提供します。
個人情報の取扱い	本研究で得られた個人情報は、外部に洩れることのないように厳重に管理します。研究成果の発表にあたっては、患者さんの氏名などは一切公表しないこととします。データは、診療録から収集した後、氏名など個人が特定されない形で匿名化いたします。匿名化されて収集したデータは、試験期間終了後も千葉大学大学院医学研究院消化器内科学の教室の鍵のかかる棚で保管します。
本研究の資金源 (利益相反)	本研究に関連し、開示すべき利益相反はありません。
お問い合わせ先	君津中央病院 消化器内科 畦元亮作 電話：0438-36-1071（代表）
備考	